

I 実践

1 研究主題

人権尊重の精神を養い、思いやりや助け合いの心をもって行動する児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は、「自ら学び心豊かでたくましい田尻っ子の育成」で、目指す児童像は、①たすけあう子、②じょうぶな子、③りはつな子である。それを受けて本校人権教育の目標は、「人権尊重の精神に基づいて、互いに認め合い支え合おうとする児童の育成」を目標としている。本校には、友達の良さや苦手さを受け入れて、優しく友達に接する児童もいる一方で、自己中心的な行動をとる児童もいる。また、家庭環境によって、基本的生活習慣の形成や道徳性の差も見られる。

そこで、学校の教育活動全体を通して、一人一人が人権尊重の精神を培い、相手を思いやり、お互いに助け合う心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 実践内容

- ア 人権が尊重される人間関係づくり
- イ 人権が尊重される学習活動
- ウ 人権が尊重される環境づくり



※アイマスク体験の様子

2 実践内容

(1) 人権が尊重される人間関係づくり

ア 青空タイム

毎月1回程度で兄弟学級遊びを行い、異学年との交流を図っている。上の学年が中心となって遊びを考え、下の学年をサポートしながら遊んでいる。それぞれの立場を考えて遊ぶので、友達を思いやる態度を育てるよい機会となっている。

イ Q-Uテストの活用

学級全体の状態や支援の必要な児童を把握し、適切な働きかけを行うために、高学年はQ-Uテストを実施している。5月の実施結果をもとに対策を計画・実行し、11月に再度Q-Uテストを実施する。

2回実施することで、児童の変容を捉え、さらに改善を図ることができた。

ウ 学校生活アンケートの実施

毎月、学校生活アンケートを実施している。生徒指導部が発行するこのアンケートは、10項目の質問に○か×で答える形式になっている。担任は学級の状態を把握することができる。また、高学年は「つぶやき編」という悩みなどが詳しく書けるアンケートも行う。児童の不安や悩みをいち早く把握し、対応することができた。

エ あいさつ運動

生活委員会の児童を中心となってあいさつ運動を毎日門の前で実施している。また、他の児童も学級単位で年に2回昇降口前で、あいさつ運動を行った。PTAや保護者も参加して、児童へあいさつの呼びかけをしている。

(2) 人権が尊重される学習活動づくり

ア 総合的な時間における体験学習（第4学年）

(ア) 福祉体験

「田尻の思いやりをさがそう」の学習の一環として、地域のゲストティーチャーの協力を得て、シニア疑似体験・車いす・アイマスク・手話などをグループに分かれてグループに分かれて体験し、高齢者や障害のある人々の大変さや苦勞の他、どのような助けが必要かなどを考えた。

(イ) お年寄りとの交流

地域の公共施設を訪問し、集まったお年寄りの方々に歌やリコーダーなどを発表したり、一緒にお話をしたりして交流を図った。また、メッセージカードを作成して届けた。

イ 道德教育の充実

本校では、年に1度は道德の授業を授業参観で公開している。また、年間道德教育指導計画に基づいて、多様な題材で、人権感覚や人権尊重の精神の涵養を図っている。ビデオや拡大図、手作り教具などの資料が揃っており、充実した道德の授業の展開が図られている。

(3) 人権が尊重される環境づくり

ア 人権コーナーの設置

2階パントリーの脇に「人権コーナー」を設置している。人権メッセージや人権の説明などを掲示することで、人権尊重の意識が高まるようにした。

イ 各学級の掲示物

各学級に道德コーナーがあり、学級の児童のよい行動をカードに書き、掲示している。互いのよさを認め合うよい機会となっている。

3 成果

- (1) 青空タイムでは、高学年の児童が自分の立場を理解して、低学年の児童に優しく接する姿が見られた。昨年は、低学年と張り合って喧嘩をしていた児童も、今年は低学年を楽しませるために遊びを考えたり接したりするなど、成長が見られた。

また、Q-Uテストや学校生活アンケートを実施することで、児童一人一人の状態や悩みに気づき、対応することができた。

- (2) 道德の授業を公開することで、保護者とともに児童の考えを受け止めるよい機会になった。また、保護者とともに人権や道德について考えるよい機会ともなった。総合的な学習の時間では、福祉体験やお年寄りとの交流を通し、高齢者や体の不自由な方の生活に学んだり理解を深めたりすることができた。また、今後どのように接していくことが大切なのか、自分たちにできることは何かを学ぶよい機会となり、実践意欲の高まりがうかがえた。

- (3) 人権コーナーや学級の道德コーナーを進んで見る児童の姿が見られた。道德コーナーのメッセージを、丁寧に色を塗り、気持ちを込めて書いている児童が多く見られた。



※教室に掲示された
「きらめきの木」

II 今後の課題

今年は簡単な人権研修会を1度しか行っていないので、次年度は計画的に研修会を行う必要があると感じた。また、今後も、学校教育活動全体を通して人権教育を推進し、自己や他者を大切にする人権意識や人権感覚を育て、児童一人一人の意識の高揚や高揚を図っていききたい。また、系統的・計画的に活動し、教科領域の目標や内容を人権教育の視点から見つめ直し、どのような力をつけることができるか、明確にした上で児童の思いやりの心、助け合う心を育てていきたい。

III 人権コーナー



※全校児童の憩いの場である「どしっこ広場」の一角に、人権コーナーを設置し、人権メッセージや人権書道作品などを計画的に掲示している。